

北海道洞爺湖サミット記念 環境総合展2008

(札幌ドーム 北海道札幌市 2008年6月19日(木)～21日(土))

■会場：札幌ドーム アリーナ(17,000㎡) ●主催：北海道洞爺湖サミット記念 環境総合展2008実行委員会 ●共催：社団法人日本経済団体連合会/北海道商工会連合会/北海道中小企業団体中央会/社団法人北海道建設業協会/社団法人北海道バス協会/財団法人北海道環境財団/室蘭工業大学/帯広畜産大学/北見工業大学/グリーン購入ネットワーク/バイオマス総合展実行委員会/3R活動推進フォーラム/環境広場さっぽろ実行委員会/ものづくりテクノフェア実行委員会

KEY WORD

- 環境問題
- 記念
- 啓蒙・啓発

OUTLINE

北海道洞爺湖サミットの開催を記念し、出展者数333社・団体という、これまでにない規模による環境イベントを札幌ドームで開催。会場では、最先端の環境技術や製品など環境問題に対する取り組みを展示するとともに、実際にこれらを体験してもらうほか、環境問題に関する各種フォーラムを実施。

CHECK POINT

- ◆北海道初の大規模環境イベント。
- ◆出展企業の半数を占める道内企業がその技術力をアピール。

DATA

- 〈出展社数〉 333社・団体(アリーナ会場 660小間, 屋外会場100小間)
- 〈出展料〉 スペース出展：1小間(10㎡) 210,000円
ブース出展：1小間(9㎡) 210,000円
- 〈ターゲット〉 一般来場
ビジネス来場
社会見学
各国サミット関係者
各国報道機関
- 〈告知宣伝〉 北海道新聞での出展募集
および開催広告
日経新聞による出展募集
および開催広告
チラシ40万枚配布(うち16万枚を市内小・中学校生徒数分布)
北海道庁・札幌市の関連機関誌および広報紙での告知
全日空・JRの広報紙での告知
「環境総合展2008」
公式HPの作成
ほか
- 〈製作印刷物〉 A4 チラシ 400,000枚
会場配布用パンフレット 70,000枚
ハンドブック 20,000部
子ども向けガイドマップ 7,000枚
- 〈スタッフ数〉 事務局スタッフ 9人
会場スタッフ 300人 (3日間)
- 〈入場料〉 無料
- 〈入場者数〉 83,742人(3日間)

19日(木)	26,666人
20日(金)	28,167人
21日(土)	28,909人



←札幌ドームを会場に、北海道ではこれまでにない規模の環境イベント「環境総合展2008」が開催された



→三聖側と二聖側に特設されたステージでは環境をテーマにした多彩なイベントが連日展開された。写真は三聖側×インステージで行なわれた「ヒマラヤ地域における温暖化の影響」と題したアルビニスト野口健氏の講演の様子

趣旨

①環境産業の最先端技術・最新情報の発信
エコイノベーション、エコテクノロジー、エコプロダクト、エコサービス等の最先端技術・最新情報や動向の紹介と、それらを使った新しいエコライフスタイルの提案。

②環境ビジネスの新たな展開のために、
マッチング機会を創出

環境ビジネスにおける製品の販売促進、新技術・製品・材料の紹介など、ビジネスパートナーとのマッチングの機会を創出し、環境産業の発展に寄与する。

③次世代のために、環境教育に関する
魅力あふれる体験の機会を提供

未来を担う子どもたちにとって最先端技術に直接触れることができるチャンス、環境問題を伝える教材、自分たちができることを考えるきっかけとして、また、企業などが環境問題に取り組んでいることを体感してもらう最適な場として活用する。

④市民の環境に対する意識や取り組みを
さらに促進していく

北海道が誇るべき自然環境を大切に維持し、さらによりよい環境にするために、市民が主体的に参加し、地域を動かしていく好機とする。

⑤「環境センサーアイランド北海道」を
世界に向けてアピール

北海道には世界に誇るべき自然環境があると同時に地球温暖化の観測に有効な指標（インディケーター）を複数保有している。この資産を最大限に活用して、世界に貢献していく。

内容

【環境展示】

「環境啓発・エコライフゾーン」「バイオマス&新エネルギー・省エネルギーゾーン」「環境技術・コンサルティングゾーン」「廃棄物処理・リサイクルゾーン」の4ゾーンに分け、最新の環境技術、環境商品、研究成果などを紹介するほか、主催者によるテーマ展示も展開。

●環境啓発・エコライフゾーン

省エネ家電、食品・流通、エコ容器包装、再生プラスチック製品など、環境保全に関する啓発事業や循環型社会の構築に向けた取り組みを紹介。

●バイオマス&新エネルギー・

省エネルギーゾーン

バイオマスエネルギー、太陽光発電、風力発電、水素・燃料電池、コージェネレーション、グリーン物流など、さまざまなエネルギー開発への取り組みを紹介。

●環境技術・コンサルティングゾーン

環境教育、CO₂削減技術、大気汚染物質対策、間伐材利用製品、環境配慮型舗装など、環境問題への理解を深める工夫や環境にやさしい製品などを紹介する。

●廃棄物処理・リサイクルゾーン

ゼロミッション技術、容器包装減容・分別・回収装置、各種リサイクル技術などを解りやすく紹介。

●テーマゾーン（主催者展示）

「森」と「海」にゾーニングしたテーマゾーンを設け、この2つのゾーンを象徴する、ブナの生木と実物の流氷を展示。また、流氷の下に暮らすクリオネの生態展示をはじめ数多くのパネルや映像で北海道の豊かな自然環境を紹介する。

【森】・ブナに関するパネル展示・映像

コーナー

・ブナ生木実物展示

〈協力：黒松内町ブナセンター〉

【海】・流氷実物展示・映像コーナー

・クリオネ生態展示

・写真家&ダイバー関勝規氏作品展示。

〈企画制作：北海道新聞社、道立オ

ホーツク流氷科学センター〉

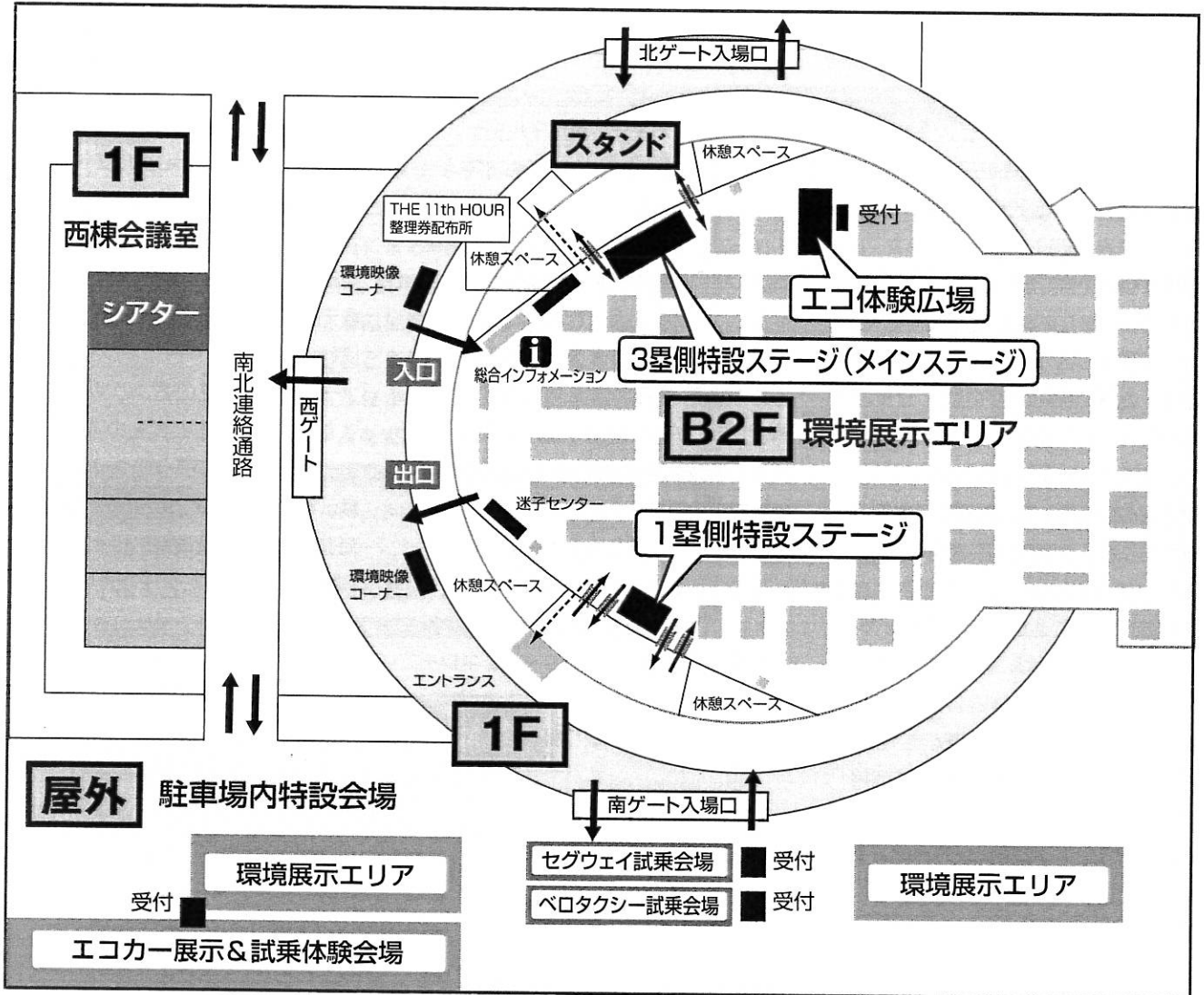


←333社・団体のそれぞれ工夫を凝らしたブースが並ぶアリーナ会場。写真は未来樹種を庭先に植える「5本の樹」計画・CO₂オフ住宅など快適で環境に配慮した家づくりを提案・紹介する積水ハウス(株)のブース



日産自動車ブースでは、電気自動車の将来像のひとつとして「PIVO 2」を展示

●会場エリアマップ



↑地球温暖化の原因とされているCO₂、NO₂排出量が最も少なく、エネルギー効率の良い輸送手段である鉄道貨物輸送を、ジオラマやパネル展示で紹介(JR貨物北海道支社、全国通運連盟、(株)鉄道貨物協会北海道支部)



↑北海道開発局ブースのパネル展示に熱心に見入る来場者たち

[ステージイベント]

	時間	メインステージ (3 類側特設ステージ)	時間	サブステージ (1 型側特設ステージ)
6月19日(木)	10:10~10:25	■北海道環境宣言 力強く、しなやかに。国内外に向けて高橋知事が宣言。 【宣言者】 高橋 はるみ 北海道知事	11:30~12:00	■環境プレゼンテーション① 農業ハウス向け小型木質バイオマス温水・温風器の提案。 【主催】 ㈱イクロス
	10:30~11:30	■開催記念基調講演 地球規模で気候リスクが急激に増大している中、日本がとるべき戦略を第一人者が提言。 【講師】 山本 良一氏 (東京大学教授) 【講演テーマ】 「活力ある低炭素経済 - エコ天国の展望 -」	12:30~13:00	■環境プレゼンテーション② 地下水の有効利用。 【主催】 ウェルシィ
	11:50~12:50	■野口 健氏 トークステージ エベレストや富士山など世界各国での清掃活動で体感した地球温暖化の現状。 【講師】 野口 健氏 (アルピニスト) 【講演テーマ】 「ヒマラヤ地域における温暖化の影響」 【主催】 北洋銀行	13:30~14:15	■博士と助手のヒートポンプ実験ショー 実験でヒートポンプの原理を楽しく学ぶ。 【主催】 ほくでんグループ・電気事業連合会
	13:30~14:45	■開催記念シンポジウム 環境と経済が調和する社会をめざして北海道はどんな行動をしていくのか、日欧の専門家がディスカッション。 【コーディネーター】 山本 良一氏 (東京大学教授) 【パネリスト】 佐藤 俊夫 (北海道副知事) フリーデマン・ブリュール氏 (タイムラーAG東京代表事務所代表) 辻井 達一氏 (北海道環境財団理事) 荻之内 雅幸氏 (㈱日本経済団体連合会 環境安全委員会 地球環境部会 部会長代行 トヨタ自動車理事) 【テーマ】 「地球温暖化防止と環境ビジネスのあり方」	14:45~15:15	■環境プレゼンテーション③ 熱源二次ポンプ省エネルギーシステム。 【主催】 ㈱朝日工業社北海道支店
	15:30~17:00	■北海道大学・国際南極大学市民フォーラム 南極という雪氷寒冷圏から今起きている現象やその要因、予想される問題点を解説。 【講師】 若土 正晴氏 (北海道大学低温科学研究所名誉教授) 杉山 慎 氏 (北海道大学低温科学研究所講師) 【講演テーマ】 「急変する極地 - 研究の最前線と次世代研究者の育成 -」 【主催】 北海道大学	15:45~16:15	■環境プレゼンテーション④ 輻射式冷暖房装置ハイブリッドサーモシステム「エコウィン」 【主催】 ㈱エコファクトリー
6月20日(金)	10:30~12:00	■NHKご近所の底カトーク 番組キャスターの経験をもとに、力を合わせ行動することの大切さを語る。 【講師】 堀尾 正明氏 (元NHKアナウンサー) 【講演テーマ】 「地球の未来は、あなたが拓く、ご近所が拓く!」 【主催】 NHK札幌放送局	10:30~11:00	■環境プレゼンテーション⑤ 北海道発、世界へ! ベンチャー企業が発信する最新のクリーンテクノロジー&サービス 【主催】 北海道ベンチャーキャピタル㈱
	12:15~13:00	■省エネ家電普及促進ウィーク キックオフイベント 最新省エネ家電選びのポイントやトレンドを紹介。ステージにはモリゾー&キッコロも登場。 【出演】 小倉 淳 氏 (フリーアナウンサー) ほか 【主催】 省エネ家電普及促進フォーラム	11:30~12:00	■環境プレゼンテーション⑥ 次世代バイオ・リサイクル燃料「バイオコース」 【主催】 近畿大学
	13:30~14:40	■温暖化と省エネについて考えよう! 環境に関する講演やスペシャルゲスト三船美佳さんを招いてのトークショー。 【講師】 中上 英後氏 (住環境計画研究所所長) 【ゲスト】 三船 美佳 さん 【主催】 ほくでんグループ・電気事業連合会	12:30~13:00	■環境プレゼンテーション⑦ 住まいで減らそうCO ₂ 家計ダイエットセミナー 【主催】 トステム㈱
	15:30~16:20	■エコファッションショー「Fashion for the Earth in Sapporo」 デザイナー岡正子氏がトウモロコシや大豆などから生成した自然繊維で衣装を製作。北海道ドレスメーカー学院生徒によるエコファッションショーを同時開催。 【主催】 札幌ドームエコロジーファッションショー実行委員会	13:30~14:00	■環境プレゼンテーション⑧ 地球温暖化と寒冷地における今後の住宅設備の展望 【主催】 三菱電機㈱
			14:30~15:00	■環境プレゼンテーション⑨ 日本の塗料業界初の環境対応型水性塗料入ダンボール箱システム 【主催】 ㈱マルタイ建築、大日本塗料㈱、日本製紙コニテック㈱、丸彦渡辺建設㈱
		15:30~16:30	■さかなクン講演会 さかなクンが漁業魚食や環境保全に対して、これからの取り組み方をトーク。 【講師】 さかなクン 【講演テーマ】 「さかなクンから見た地球の環」	
6月21日(土)	9:40~9:55	■北海道カムイミタラブランドデザインコンクール表彰式 【主催】 北海道カムイミタラブランドデザインコンクール実行委員会事務局	10:00~11:30	■JAL 空から見た地球環境講座「そらいく」 パイロットが飛行の合間に上空から見た地球温暖化の状況を独自の視点と美しい映像でわかりやすく説明。 【主催】 日本航空
	10:00~10:35 15:00~15:35	■炎神戦隊ゴーオンジャーショー 環境汚染から地球を守るオリジナルストーリーで、ゴーオンジャーステージで大活躍。	13:00~14:00	■北海道コカ・コーラボトリング×札幌円山動物園 「もっと知ろう! 私たちの地球のこと」 地球環境に関するクイズや、飼育員が野生動物を通して環境を考えるセミナーを開催。 ●森の博士クイズ大会 (13:00~13:30) ●円山動物園セミナー (13:30~14:00) 【主催】 北海道コカ・コーラボトリング㈱、札幌円山動物園
	10:45~11:45	■さかなクン環境トークショー さかなクンと写真家&ダイバーの関勝則氏が北のお魚を通じて環境問題を語る。 【ゲスト】 関勝 則 氏 (写真家&ダイバー) 【トークショーテーマ】 「さかなクンが語る北のお魚と地球温暖化」	14:30~15:30	■トークセッション「知ろう! 見つけよう! バイオマス」 バイオマス製品の特徴やバイオマスマークなどを楽しみクイズ形式で学べる。 【講師】 木村 俊範氏 (北海道大学大学院教授) 【ゲスト】 夏見 円 (クロスカントリー・スキー日本代表選手) 【司会】 三瀬 真美子 (元シェイプアップガールズ) 【主催】 農林水産省、北海道
	12:00~12:50	■オフィスキュー トークショー「誰でもできるエコのスヌメ「ド素人編」」 北海道で活躍する映画監督が、楽しく、やさしい、地球温暖化防止活動を提案。 【出演】 鈴木真之、オクラホマ		
	13:30~14:30	■実践的「エコドライブレッスン」 車と環境のもっといい関係をめざし、エコドライブレッスン。 【講師】 菰田 潔 氏 (モータージャーナリスト) 【講演テーマ】 「エコロジー・エコノミー・セーフティの3つを満足する21世紀のドライビング」 【主催】 北海道経済局、㈱日本自動車連盟、北海道新聞社		

【環境フォーラム in 北海道】 【会場】1階西棟会議室

6月19日(休)	12:30~14:30	酪農学園大学と円山動物園が考える野生生物の未来 (主催: 酪農学園大学, 札幌市円山動物園)
	13:10~16:30	バイオマスセミナー・製品利用分野 (主催: 農林水産省, 北海道)
	13:10~16:40	バイオマスセミナー・エネルギー利用分野 (主催: 農林水産省, 北海道)
	13:00~17:00	北海道とロシア極東地域の持続可能な開発に向けた環境フォーラム (主催: 北海道大学, 北海道 ほか)
	15:30~17:10	中小企業向けEMSの可能性と期待 (主催: 日経BP社)
6月20日(金)	10:00~16:30	バイオマス総合シンポジウム (主催: 農林水産省, 北海道)
	10:20~12:00	建築物の省エネルギーセミナー ~北海道大学病院ESCO事業の取り組み (主催: 北海道大学, 札幌市, 北海道電力)
	11:00~14:30	グリーンディゼル・シンポジウム (主催: 北海道経済産業局, 北海道)
	13:30~14:35	国土交通先端技術フォーラム・総合セッション (主催: 国土交通省)
	15:00~17:25	国土交通先端技術フォーラム・個別セッション1 (主催: 国土交通省)
6月21日(土)	9:30~11:00	環境講談「もったいない善兵衛」 【講談】 神田 紫 氏 (主催: 北海道)
	9:30~11:30	体験型イベント「再生段ボールでスツールを作ろう!」 (主催: 北海道)
	9:30~14:00	体験型イベント「廃材で鉛筆立てを作ろう!」 (主催: 北海道)
	9:30~14:00	地球温暖化対策講演会 (主催: 北海道, 北海道経済産業局 ほか)
	10:00~12:00	節約リフォーム・賢い新築 -北海道の住宅の未来- (主催: 北海道, 道立北方建築総合研究所)
	11:15~12:45	トークセッション「『もったいない』の視点から3Rを考える」 【コーディネーター】 林 美香子 氏 (キャスター, エコライフジャーナリスト) 【出演】 神田 紫 氏 (日本講談協会会長) 平塚 智恵美 氏 (SAPPOROエコデザインプロジェクト実行委員長) 岩井 尚人 氏 (環境カウンセラー) (主催: 北海道)
	13:00~16:00	環境と観光 -グローバルとローカルの関係から持続可能な“エコな”ツーリズムを考える (主催: 環境経営学会, 北海道大学, 環境新聞社)
	13:00~16:30	持続可能なアジアに向けた高等教育国際シンポジウム (主催: 環境省, 国連大学高等研究所, 北海道大学)
	14:00~16:30	一般公開講座「地球温暖化と日本」 (主催: 伊藤忠商事株式会社)

【特別試写会】
●「THE 11TH HOUR」プレミアム上映会

レオナルド・ディカプリオ制作・脚本・ナビゲートのドキュメンタリー映画。地球と人類が直面する問題にどう向き合うか…その答えがここに。

【会場】 1階西棟会議室シアター

【主催】 北海道新聞社

【コンテンツ提供】 ドイチェ・アセット・マネジメント
株式会社



▲
株式会社セブン&アイ・ホールディングスのブースでは北海道の環境シオラマの展示やセブンイレブン・イトーヨーカドーなどの環境活動を紹介

【エコ体験広場】

【会場】 地下2階エコ体験広場

●地球温暖化とリサイクル

地球温暖化をクイズと実験で学ぶ。

【主催】 NPO気象キャスターネットワーク、シャープ株式会社

【対象年齢】 小学4年生以上（保護者同伴の場合は5歳以上可）

【定員】 先着60名

●パソコン分解を通して学ぶ私たちの3R

実際にパソコンを分解して、3Rを体験。

【主催】 富士通株式会社

【対象年齢】 小学生以上

【定員】 先着40名

●北ガスサイエンスショー

燃料博士と電池助手の実験教室・Gパワーズによる液体窒素を使ったおもしろ冷熱実験

実験を通して環境問題とエネルギーの関係学ぶ。

【主催】 北海道ガス株式会社

【対象年齢】 小学生

【定員】 先着60名

●ENEOS わくわくキャンドルづくり

カラフルなろうで自分だけのろうそくを制作。

【主催】 新日本石油株式会社

【対象年齢】 小学3年生以上（保護者同伴の場合は4歳以上可）

【定員】 先着36名

●ベネッセ おがくずアート

色のついた道産材おがくずで、絵を制作。

【主催】 ベネッセコーポレーション

【対象年齢】 小学生以上（保護者同伴の場合は5歳以上可）

【定員】 先着30名

●わが家のCO₂削減プロジェクト!

CO₂を調べる定規で身近で排出されるCO₂をチェック。

【主催】 山崎教育システム

【対象年齢】 小学生以上

【定員】 先着60名

●ケナフの粘土作り・粘土細工

ケナフのパルプ化と紙すき体験

ケナフの茎や皮をつかって粘土作りや紙すきを体験。

・20日 粘土作り

16:10~16:55/定員:先着50名

※下敷き持参

・21日 紙すき

11:55~12:40/定員:先着60名

※タオル持参

【主催】 NPO日本ケナフ開発機構、北海道ケナフの会



↑オホーツク海で採取された流氷の塊。地元漁港の冷凍庫で保管されていたものを会場に運んだ。地球温暖化の影響で北海道にやってくる流氷も年々減少している（テーマゾーン主催社展示）



←国土交通省北海道運輸局のブースで行なわれた「交通エコロジー教室」。出席者には飲み物やかき氷がサービスされた

→エコ体験広場で行なわれた「ENEOSわくわくキャンドルづくり」



→環境をテーマにした展示会ということで会場内で出されるごみも8種類に分別



【展示&試乗・同乗体験】 【会場】 駐車場内特設会場

タイプ	車種	試乗	同乗	出展企業
燃料電池自動車	トヨタFCHV		●	JHFC水素・燃料電池実証プロジェクト
燃料電池自動車	日産X-TRAIL FCV		●	JHFC水素・燃料電池実証プロジェクト
燃料電池自動車	ホンダFCX		●	JHFC水素・燃料電池実証プロジェクト
燃料電池自動車	メルセデス・ベンツAクラスF-Cell		●	JHFC水素・燃料電池実証プロジェクト
燃料電池自動車	GM HydroGen 3		●	JHFC水素・燃料電池実証プロジェクト
燃料電池自動車	X-TRAIL FCV		●	日産自動車株式会社
クリーンディーゼル自動車	メルセデス・ベンツ CLK320 CDIカプリオレ	●		ボッシュ株式会社
クリーンディーゼル自動車	X-TRAILクリーンディーゼル		●	日産自動車株式会社
クリーンディーゼル自動車	E320 CDI	●		メルセデス・ベンツ日本株式会社
電気自動車	iMIEV (アイミーブ)	●		北海道電力株式会社
超電導電気自動車	超電導EV-1 / 超電導EV-2		●	住友電気工業株式会社
水素エンジン自動車	マツダRX-8 Hydrogen RE		●	JHFC水素・燃料電池実証プロジェクト
有機ハイドライド水素自動車	ヴィッツ (水素・ガソリン混合燃料)		●	株式会社フレイン・エナジー / フタバ産業株式会社
LPGハイブリッド自動車	プリウスLPGハイブリッド		●	アストモスエネルギー株式会社
天然ガス自動車	三菱ミニキャブ4WD バイフューエル	●		天然ガス自動車北海道株式会社
バイオガス自動車	プロボックスバン		●	別海町役場
E10対応自動車	日産ムラーノ		●	財団法人十勝圏振興機構

試乗…専門スタッフが同乗し、参加者が実際に運転できる。
同乗…専門スタッフが運転し、参加者が助手席または後部座席に同乗。

【環境映像コーナー】

〔上映作品〕

- ・第11回環境コミュニケーション大賞受賞CM
(主催：環境省、財団法人地球・人間環境フォーラム)
- ・Green TV Japan
- ・SMBC環境プログラム C・C・C富良野自然塾

●DMV (デュアル・モード・ビークル) 展示

線路と道路を自在に行き来するDMVの魅力や構造を紹介。
〔提供〕 JR北海道グループ

●コナン号展示

天然ガス自動車「コナン号」前で、TVモ

ニターやパネルを使って、天然ガスに関するクイズ大会など多彩なイベントを実施。

〔提供〕 社団法人日本ガス協会

●しまじろうカー展示

〔提供〕 株式会社ベネッセコーポレーション

【屋外出展エリア】

●ペロタクシー体験試乗会

〔試乗料〕 大人200円 / 小学生以下100円
〔所要時間〕 約3分
〔定員〕 1台2名
〔提供〕 特定非営利活動法人エコ・モビリティ サッポロ

●セグウェイ体験試乗会

〔試乗料〕 1人200円
〔体験時間〕 1回約5分間
〔定員〕 1台1名
〔提供〕 キヤノン・マーケティングジャパン株式会社
日本SGI株式会社、株式会社ジヤストイン・レンテック



↑ 超電導電気自動車などエコカーが展示された屋外出展エリア



担当者の話

環境総合展2008実行委員会事務局

次長 日置典宏 氏

実行委員会事務局が正式に発足したのが今年1月。これだけの大規模イベントとしては準備期間が非常に短い中、スタッフ一同ここまで一気に走り抜けてきた感じです。日程が週末を挟まないこと、また夏休み前ということで不安もありましたが、3日間で目標を大きく上回る80,000人超の動員を達成。洞爺湖サミット、また環境問題に対する関心の高さが、この数字に結びついたと感じています。特にビジネス客から家族連れまで、幅広い層にご来場いただけたことが最大の成果でした。

今回のイベント開催の目的は、サミットをきっかけに、来場者にさまざまな角度から「環境」について知っていただくことでした。官民一体となって実行委を

組織しましたが、プログラムは実行委のメンバーである札幌市が開催してきた「環境広場さっぽろ」、北洋銀行が開催してきた「ものづくりテクノフェア」、また道内で折々に開催されてきた各種展示会を統合した内容になっており、イベントの名称も「環境展」ではなく、「環境総合展」としています。

出展企業の募集は、各省の出先機関を中心に展開。最初から企業側の反応が良く、会場全体を400小間で想定して動き出したところ、全部で382社、1,000小間分の申し込みがあったんです。1社あたりの小間数を減らしたり、予定になかった屋外会場を設けて調整しましたが、それでも対応しきれずに、最後は抽選を行なわせていただきました。参加したいと言ってくださった企業にお断りを入れることは、準備段階で一番辛い仕事でしたね。最終的な参加企業は333社、うち半分が道内企業です。来場者の方々には、北

海道の企業にもこれだけの技術力があるということを知っていただけたらと思います。また道内企業にとっては本州企業に対して自分たちをPRする絶好の機会になったと思います。イベントをきっかけに、新たなビジネスチャンスが生まれてくれたら嬉しいですね。



↑身体バランスに合わせて進み、CO2を排出しない環境にやさしい乗り物「セグウェイ体験試乗会」

REPORT

〈異業種が集う実行委が半年常勤で一丸〉

イベント実行委は、道や札幌市をはじめ16の道内主要企業・団体が構成。それぞれの組織から派遣された10名の専属スタッフが、半年間、常勤で事務局作業にあたった。「環境問題とひとことと言っても考え方は一人ひとり違う。各職場でイベント業務を経験してきたメンバーを中心に、皆で何度も意見を擦り合わせながらプログラムを詰めていきました」と日置事務局次長は説明する。

〈イベント予算編成〉

イベント開催予算は、総額の約4分の1をサミット成功を期して官民共同で組織された「北海道洞爺湖サミット道民会議」が負担。残りを道や札幌市、企業からの負担金および出展料で賄わ

れた。実行委メンバーの北海道新聞、日本経済新聞紙上での告知も相当回数行なわれ、動員に大きく貢献。また札幌ドームが市が出資する第3セクターのため、全面的に協力してもらえるメリットもあった。

〈道の財務規則にのっとり、チラシ作りも入札制で〉

今回の事業は道の財務規則にのっとり行なわれたため、運営企画およびハンドブック制作もすべて入札制。業者側は企画を提案し、見本を作り、プレゼンテーションに臨んだ。また会場の警備は24時間体制で屋内・ドーム外周と別々に行なわれたが、この警備会社も入札制度。「過去に札幌ドームで10,000人以上集客のイベント警備を2度以上行なった実績」があることを条

件に、厳正な審査のうえ業者が選定されたという。

〈予想を上回る動員に大きな手応え〉

当初掲げられていた動員目標は60,000人。それが初日にビジネス客を中心に26,000人が来場すると、入場者はその勢いで伸び続け、最終的には80,000人を突破。「事務局一同が驚いた」と日置氏は話す。「出展企業からも感謝の言葉をたくさんいただいて、大きな手応えを感じています」。人々の日々の暮らし、次代のための学術的研究、そして新たなビジネスチャンス——。多種多様で奥が深く、限りなく深刻な「環境問題」は、イベント業界にとってもまた、限らない可能性を秘めている。

(6/13金・6/19木) 横山真紀